

○本校の概要

- 学級数 18 学級 児童数 529名(令和5年5月現在)
- 令和4年度全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会・東京大会で大会主題「新たな価値の創造～深い学びの実現を目指して～」の会場校として実践発表を行った。
- 令和2・3年度大田区教育委員会教育研究推進校として、「未来ものづくり」のためのカリキュラム開発に取り組む。令和4年度からは、大田区教育委員会独自教科新設に向けた研究実践校として「おたの未来づくり」に向けてのカリキュラム開発に取り組んでいる。
- コミュニティスクールとして、学校運営協議会を中心として、地域と協働した学校教育を実施する。

○自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄	
								評価 人数	
								コメント	
未来社会を創造的に生きる子供への育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成を図っている。	4:「おむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:保護者アンケートによる「お子さんは楽しく学校で過ごしている」という項目が80%以上	4:	○1年生から、児童にタブレットの基本操作を学ばせ、週1度の持ち帰りをし、ICT活用能力の向上を図った。ICT活用研修は、学期ごとに複数回実施し教員のさらなるスキルアップを進めている。今後は、児童の利用率を高めるよう授業での活用機会を増やしていく。 ○5・6年生では、教科担任制を導入した。複数の教員で児童を指導するため、効果的な見取りができた。また、教員も1つの教科に集中して取り組むため、各教科の専門性の向上にも繋がっていく。 ○学校評価をはじめ、各種アンケートも電子化を図り、PTAからの文書もスクリーンアプリにする等、紙文書からの脱却を図りスリム化した。	A 10	・公開授業で見た時の児童のタブレット使用は活発にできている。また、廊下ですれ違う時の児童の挨拶も元気にもなっている。学校全体、先生児童全員で継続し持続力をつけて行く。 ・タブレットが1人1台ずつ持てるようになってから僅か3年で、期待されるICT教育に学校全体で対応してきた成果を出していると思えます。けれど年度から「スクールタイム」が浸透しやすくなることと、担当している聞き手も、本当に浸透しています。 ・「おたの未来づくり」の先駆者として、地域や関係機関と連携を重んじながら授業研究している先生方。その姿こそが子どもたちの生き生きのお手本になっていると感じ、まじまじと見守っています。 ・先生方の熱心なお考えのもと、子どもたちの成長のため、未来に生きていくために取り組まれていると思えます。ICT活用の研修会で学ばれた事を実践できる先生方が増えていくことで、子どもたちの学びがどんどん広がっていくと感じています。 ・今後、児童の利用率を高めるよう授業での活用機会を増やしていく。 ・今後もさらに進め、良い効果も期待する。 ・アンケート等の電子化についてですが、スクリーンアプリの利用により、教員も児童も負担が軽減されやすくなると思います。 ・校長先生、副校長先生を中心に教員がきめ細やかな取り組みをされていると感じています。また地域の協力が不可欠であり、様々な業種が集まる蒲田法入会に呼び掛ければ道塚だけでなく大田区内の小中学校において新たなつながりが生まれるのではないかと感じています。 ・教科担任制は指導内容や指導方法が公平になるので、今後も教科の枠を越えて指導の有用活用、限りなくペーパーレスにしていきたいと考えています。 ・音楽、図画工作、体育の授業でも、タブレット端末を活用した授業の導入を期待しています。 ・スクリーンは、登録して下さる方も増えてはいるが、手帳の内容を見たい方も多く、4月から再度登録、機種変更などの引継ぎがまだ浸透していないことが課題ではあります。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたの未来づくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4:保護者アンケートによる「お子さんは楽しく学校で過ごしている」という項目が75%以上	3:			
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:80%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 3:70%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 2:60%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 1:60%未満であった。	4	4:保護者アンケートによる「お子さんは楽しく学校で過ごしている」という項目が60%以上	4:			
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3	4:保護者アンケートによる「お子さんは楽しく学校で過ごしている」という項目が60%未満	2:			
児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3	4:保護者アンケートによる「お子さんにとって分かりやすい授業をしている」という項目が80%以上	4:	○児童が自ら課題について学習する自学教室を火曜日と土曜日の放課後年間6回、実施している。参加する児童の学力について、地域人材を活用して伸ばす体制を昨年から構築して進めている。 ○学習効果測定の結果から、1～3年生時の学習の基礎基本の習得に課題がある。基礎的な学習内容の習得を繰り返し行い、今後も定着を図っていく。 ○10月の読書の調査では、区の読書活動推進計画の目標である10冊を上回る12冊を記録した。1カ月間本を読まない不読者は0であった。また、3年間の「家読」記録を1冊にまとめた。個々の読書記録を綴っている。今後も読書活動の一層の充実を図っていく。	A 8	・公開授業で見ると、児童たちの学習意欲は高いと思われる。総合や応用的な学習に向け、個人の能力に応じる必要があるが、算数や国語においてドリルなど、基礎の基礎的なものもしっかり身につけることは大事だと思える。 ・公開授業の準備期間に、児童の学習意欲を高めるために、算数や国語に個性、格差があると感じ、その指導の難しさを感じた。ところが先日、その学年の今年度の授業を見学してみるとその子たちの成長がしっかりとわかりました。 ・自学教室を実施したが、子どもたちに学びの楽しさを感じてもらうためには、学力向上に合わせた指導が必要だと思えます。1カ月間本を読まない不読者は0であった。また、3年間の「家読」記録を1冊にまとめた。個々の読書記録を綴っている。今後も読書活動の一層の充実を図っていく。	
	算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%未満であった。	3	4:保護者アンケートによる「お子さんにとって分かりやすい授業をしている」という項目が70%以上	3:				
	学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%未満であった。	3	4:保護者アンケートによる「お子さんにとって分かりやすい授業をしている」という項目が60%未満	2:				
	授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	4:保護者アンケートによる「お子さんにとって分かりやすい授業をしている」という項目が60%未満	1:				
子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感を高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、豊かな心への希望に満ちた豊かな心を育てます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4:保護者アンケートによる「お子さんが友達と良い関係を築いている」という項目が80%以上	4:	○いじめ防止基本方針に基づき、いじめに関する事業及び生活指導に関する事業については、当該学年だけでなく管理職、生活指導主幹が解決に努めている。また、サポートルーム教員やスクールカウンセラーとも連携し、早期解決に努めている。問題行動が起きたときや不登校問題にかかわる児童対応が必要とときは、関係機関と連携し、必要に応じて、情報関係の構築が何よりなではないかと改めて思いました。 ○今後も、ひとりのケースを大切に取組んでほしい。 ○いじめに関しては、目に見えないいじめも含めて把握できるネットワークを作り取りやめを促すことと、児童・保護者間の連携を強化し、いじめを未然に防止し、解決を図ることと、年齢が低いまは、保護者同士の関係が子どもたちの関係にも大きく影響を及ぼすと思うので、学校だけではなく、家庭でも取り組みが必要だと思えます。 ・デリケートな問題にも丁寧に取り組んでほしい。情報共有がなされていることが大きい。引き続きお願いします。 ・引き続き、教職員、サポートルーム教員、スクールカウンセラーが連携して、生活指導の充実を図ってほしい。	A 8		
	道徳教育推進教師を講師として研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	4:保護者アンケートによる「お子さんが友達と良い関係を築いている」という項目が70%以上	3:				
	学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的に対応できた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:保護者アンケートによる「お子さんが友達と良い関係を築いている」という項目が60%以上	4:				
	学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的に対応できた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:保護者アンケートによる「お子さんが友達と良い関係を築いている」という項目が60%未満	2:				
スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4:保護者アンケートによる「お子さんは楽しく学校で過ごしている」という項目が80%以上	4:	○早寝早起きカードを使い毎学期指導している。調査前に、動画をを用い食育等指導もしている。 ○中休みや昼休みで合計45分の時間をとり、外遊をする児童が増えている。また、高学年については放課後遊びの時間を設け、校庭を開放することにより、運動時間の確保が図られている。 ○体育朝会をはじめ、6月に体力向上週間として運動イベントの取組を行った。また、12月には「RUNRUNタイム」の時間を設け、持久力を養い、体力の向上を図った。	A 11	・中休みなど子どもたちの元気な声があふいていた。体育授業など元気に取り組んでいる。また、今の子ども達には、運動だけでなく、体力向上には、運動時間が必要であり、保護者や保護者も意識して対応していく必要がある。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」の動画が素晴らしい。子どもたちはその数が大好きなようで元気に取り組んでいる姿を見ました。学校が毎日の「良い習慣」を身につけてほしいです。 ・基本的な生活習慣の徹底は小さな頃から本気で大切にしてほしい。早寝早起きや食育指導まで、幅広い指導、本気で取り組んでほしい。外遊びや、RUN RUNタイムも大切な体力向上の取組です。 ・今後も継続してほしい。 ・運動に関しては、寒い中でもたくさん児童が公園で遊んでいる姿をよく目にします。運動が楽しくなることが、児童の健康増進につながっていくと思います。運動は精神的にも良いことこの病も改善するのではないか、続けてほしいと思います。 ・体の弱さが精神的な弱さにつながることは、是非強化を続けてほしい。コロナ禍においてゲーム時間が増え外遊びから更に遠くになり、小学生が遊ぶ姿を公園などでも見なくなりました。 ・体力は学力にも繋がります。保護者の協力もお願いいたします。 ・引き続き、教職員、サポートルーム教員、スクールカウンセラーが連携して、生活指導の充実を図ってほしい。 ・長編をやることを楽しみにしていました。今年度もあると嬉しいです。	
	給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4:保護者アンケートによる「お子さんは楽しく学校で過ごしている」という項目が90%以上	4:				
	体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4:保護者アンケートによる「お子さんは楽しく学校で過ごしている」という項目が60%未満	1:				
	問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事業に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事業に対しておたの会議を実施した。 2:必要な事業に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事業に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4	4:保護者アンケートによる「お子さんが友達と良い関係を築いている」という項目が80%以上	4:				
児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくり出す。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4:保護者アンケートによる「お子さんは楽しく学校で過ごしている」という項目が80%以上	4:	○学校公開は、通常の参観形式とし、年間3回実施した。回答のあった保護者からは、「わかりやすい授業」について肯定的な評価を得ている。 ○区主催の研究発表会に参加し、各校の研究の成果や課題についての情報を共有し、教職員の学びの機会を確保した。 ○特別支援教育コーディネーターが中心となり、学級担任とサポートルーム教員で定期的に校内委員会を開き、児童への支援の在り方を話し合った。 ○木曜日のOJTの時間を使って、各教科や特別支援教育の研修を随時行い、授業力及び教員一人一人の学級経営の向上を図っている。	A 11	・中休みなど子どもたちの元気な声があふいていた。体育授業など元気に取り組んでいる。また、今の子ども達には、運動だけでなく、体力向上には、運動時間が必要であり、保護者や保護者も意識して対応していく必要がある。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」の動画が素晴らしい。子どもたちはその数が大好きなようで元気に取り組んでいる姿を見ました。学校が毎日の「良い習慣」を身につけてほしいです。 ・基本的な生活習慣の徹底は小さな頃から本気で大切にしてほしい。早寝早起きや食育指導まで、幅広い指導、本気で取り組んでほしい。外遊びや、RUN RUNタイムも大切な体力向上の取組です。 ・今後も継続してほしい。 ・運動に関しては、寒い中でもたくさん児童が公園で遊んでいる姿をよく目にします。運動が楽しくなることが、児童の健康増進につながっていくと思います。運動は精神的にも良いことこの病も改善するのではないか、続けてほしいと思います。 ・体の弱さが精神的な弱さにつながることは、是非強化を続けてほしい。コロナ禍においてゲーム時間が増え外遊びから更に遠くになり、小学生が遊ぶ姿を公園などでも見なくなりました。 ・体力は学力にも繋がります。保護者の協力もお願いいたします。 ・引き続き、教職員、サポートルーム教員、スクールカウンセラーが連携して、生活指導の充実を図ってほしい。 ・長編をやることを楽しみにしていました。今年度もあると嬉しいです。	
	授業改善セミナー等の研修会を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:「おむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:保護者アンケートによる「お子さんは楽しく学校で過ごしている」という項目が80%以上	4:				
	各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:保護者アンケートによる「お子さんが友達と良い関係を築いている」という項目が60%以上	4:				
	校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回以上行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	4:保護者アンケートによる「お子さんは楽しく学校で過ごしている」という項目が60%未満	1:				
学校・家庭・地域が担う役割などを明確に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作り出します。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	4:保護者アンケートによる「お子さんは楽しく学校で過ごしている」という項目が80%以上	4:	○コミュニティスクール校として、地域の各会の代表に出席していただき、年間6回の協議会を実施している。今年度は、卒業生をゲストに招き、現役の世代からの意見を聞き、これからのCSの取組に必要となる意見交換を行うことができた。 ○毎月1回学校支援地域本部との会合を開催した。また、各学級担任とサポートルーム教員で定期的に校内委員会を開き、児童への支援の在り方を話し合った。 ○木曜日のOJTの時間を使って、各教科や特別支援教育の研修を随時行い、授業力及び教員一人一人の学級経営の向上を図っている。	A 9	・公開授業や研修会などのイベントにおいて保護者・地域の参加は活発で、子ども達も積極的に参加しており、先生方の努力の賜であると感じています。また、学校・地域の協働により、保護者・地域の参加を促すための工夫を凝らして取り組んでいます。 ・「おたの未来づくり」の先駆者として、地域や関係機関と連携を重んじながら授業研究している先生方。その姿こそが子どもたちの生き生きのお手本になっていると感じ、まじまじと見守っています。 ・先生方の熱心なお考えのもと、子どもたちの成長のため、未来に生きていくために取り組まれていると思えます。ICT活用の研修会で学ばれた事を実践できる先生方が増えていくことで、子どもたちの学びがどんどん広がっていくと感じています。 ・今後、児童の利用率を高めるよう授業での活用機会を増やしていく。 ・今後もさらに進め、良い効果も期待する。 ・アンケート等の電子化についてですが、スクリーンアプリの利用により、教員も児童も負担が軽減されやすくなると思います。 ・校長先生、副校長先生を中心に教員がきめ細やかな取り組みをされていると感じています。また地域の協力が不可欠であり、様々な業種が集まる蒲田法入会に呼び掛ければ道塚だけでなく大田区内の小中学校において新たなつながりが生まれるのではないかと感じています。 ・教科担任制は指導内容や指導方法が公平になるので、今後も教科の枠を越えて指導の有用活用、限りなくペーパーレスにしていきたいと考えています。 ・音楽、図画工作、体育の授業でも、タブレット端末を活用した授業の導入を期待しています。 ・スクリーンは、登録して下さる方も増えてはいるが、手帳の内容を見たい方も多く、4月から再度登録、機種変更などの引継ぎがまだ浸透していないことが課題ではあります。	
	学校運営連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:「おむね」情報を提供した。 2:「おむね」情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4	4:保護者アンケートによる「お子さんが友達と良い関係を築いている」という項目が75%以上	3:				
	学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2～3回以上行った。 3:学期1回以上行った。 2:1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	4:保護者アンケートによる「お子さんが友達と良い関係を築いている」という項目が60%以上	2:				
	コミュニティスクール連絡協議会を学期に2回、年間6回実施し、地域に開かれた学校教育を実施する。	4:毎回意見交換を実施した。 3:年に2～3回教職員が出席した。 2:情報交換があまりできなかった。 1:意見交換も情報提供もなかった。	4	4:保護者アンケートによる「お子さんが友達と良い関係を築いている」という項目が60%未満	1:				

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。
 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する